

# 戦略的リノベーション及び土地等の資産活用に関する事例集

平成30年8月

文部科学省では、老朽改善とともにスペース創出・再生のためにトップマネジメントによる集約化等を実施している戦略的リノベーション整備や、土地等の資産活用について、国立大学法人に加え、私立大学や地方公共団体等における事例をとりまとめました。今後の国立大学法人等の施設整備等において、本事例集が積極的に活用され、良好な教育研究環境の整備充実につながることを期待します。

## 大学経営を踏まえた戦略的リノベーション

17事例

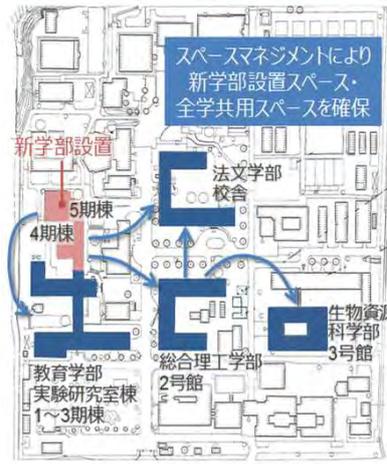
### 改修による研究環境の改善

広島大学



### 全学スペースマネジメントによる新学部スペースの確保

島根大学



### アクティブラーニング等の学修スペースを確保

山口大学



神戸大学



### 全情報基盤の集約による交流空間の創出

大阪大学

サイバーメディアセンターITコア棟を新たに整備して、スパコンをITコア棟へ移設し、空室になった本館を耐震改修に併せて、設備等の更新を行い、レクチャールームや情報機器利用スペース等の学修・研究に資する交流空間を整備した。

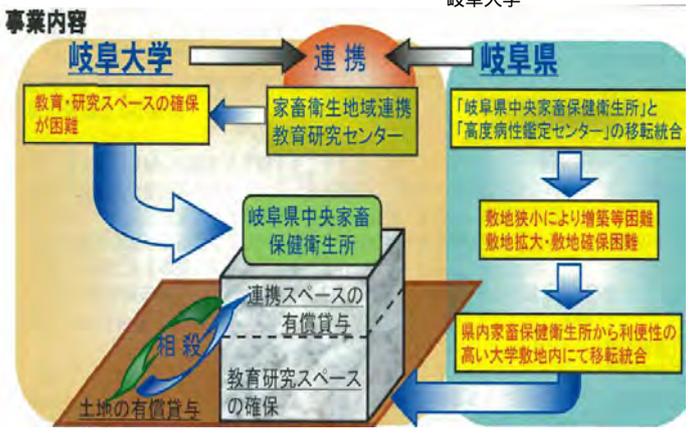


## 土地等の資産活用

20事例

### 大学の敷地を活用し、県と連携

岐阜大学



### 民間資金の活用による職員宿舍の整備

京都大学



# 広島大学

## 適切な面積配分による減築と若手研究者の研究スペースの確保



### 整備効果

#### ○若手研究者の研究環境の改善

- 従来はスペースの確保が課題であったポストドクター等の若手研究者に対しても、現員数に応じた適切な面積配分が可能となり、若手研究者の研究環境を改善した。



#### ○学内共用研究スペースの増大

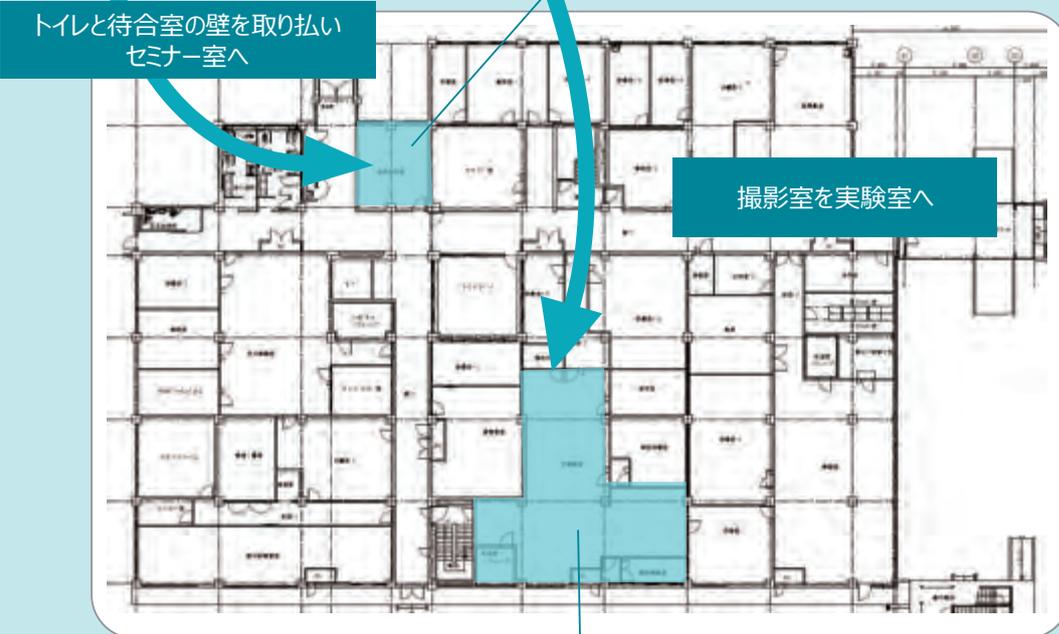
- 面積配分の適正化を図ることで、霞キャンパス全体で 4,628 m<sup>2</sup> (うち中央研究棟 : 110 m<sup>2</sup>) の学内共用研究スペースを新たに確保した。
- 確保した学内共用研究スペースは、プロジェクト研究を推進するための研究スペース (センターオブイノベーションプログラム拠点など) に使用している。
- 学内共用研究スペースは、プロジェクト研究のスペースとして使用する計画であり、徴収したスペースチャージ料を改修整備費に充当するなど、好循環の仕組みを構築している。

## ○大空間スペース化による多目的空間の創出

- 改修により大空間スペースを確保することで、多目的に利用できる施設にした。



自由な使い方が可能なセミナー室



トイレと待合室の壁を取り払い  
セミナー室へ

撮影室を実験室へ

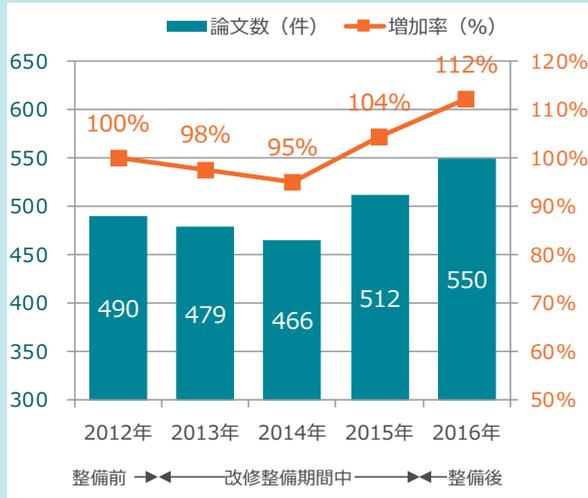
中央研究棟1F 改修前後の配置図



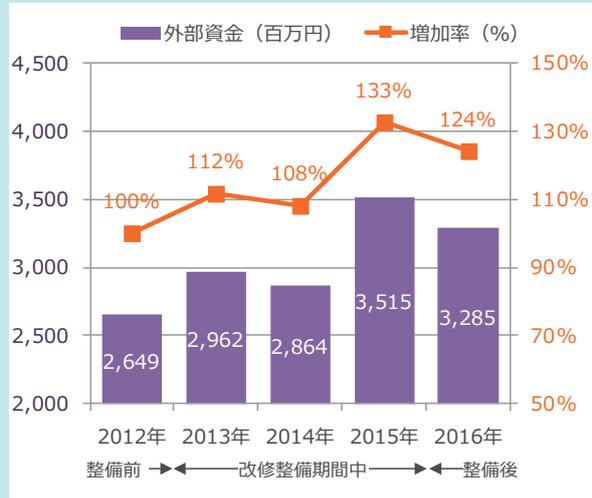
若手研究者が利用する実験室

## ○論文数・外部資金の増加

- 論文数については、改修前後（2012年から2016年）で比較すると490件から550件に増加し、研究環境改善の影響もあり上昇傾向である。
- 外部資金の獲得については、改修前後（2012年から2016年）で比較すると26.5億円から32.9億円に増加し、研究環境改善の影響もあり上昇傾向である。



改修前後の論文数の推移



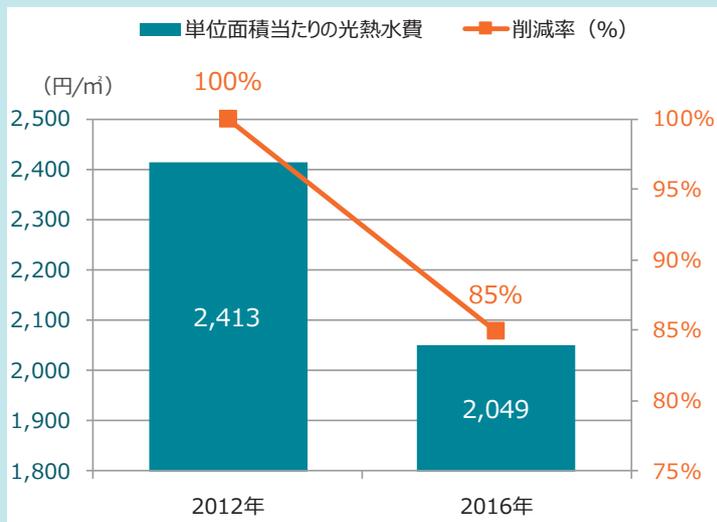
改修前後の外部資金の推移

## ○施設の適正な規模設定

- 中央研究棟について、スペースを減築し、必要な面積のみを改修することで、改修にかかる事業費を約5億円削減した。

## ○光熱水費の削減

- 改修前後の2012年（平成24年）と2016年（平成28年）を比較すると、保有面積が22.2%増加したのに対し、光熱水費の増加は3.7%に抑えられており、単位面積当たりの光熱水費は年2,413円/m<sup>2</sup>から年2,049円/m<sup>2</sup>に削減された。



単位面積当たりの光熱水費

## 事業概要

### 背景

- 大学附属病院再開発整備事業を進める中、外来診療・中央診療部門の移行に伴い生じる病院跡施設を有効活用することを検討した。
- 医学部・歯学部・薬学部及び医歯薬保健学研究科は、大学院の改組や医学部定員の増加等に伴い教員数や学生数が増加する一方で、建物の建て詰まり状態が続き、十分な増改築整備が進まなかった。その結果、狭隘なスペース、耐震性能の不足及び経年による老朽化などの施設上の課題を抱えていたため、病院跡施設をリノベーションすることにより、安全安心かつ先端的研究の推進を可能とする教育研究環境を整備することが必要となった。

### 概要

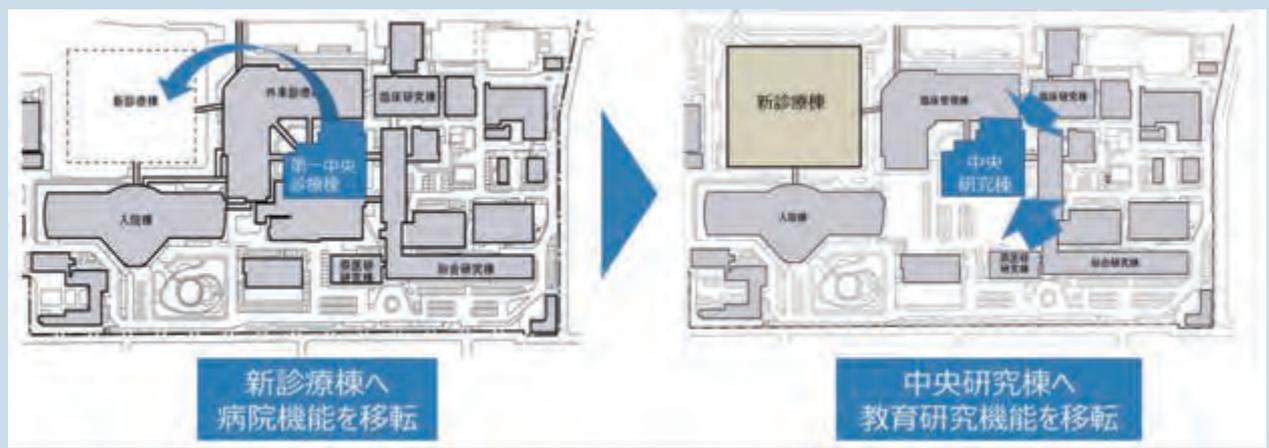
- 狭隘な状況であった医学部・歯学部・薬学部及び医歯薬保健学研究科の教育・研究スペースを改善するため、大学附属病院再開発整備事業に伴い生じていた病院跡施設を教育・研究施設にリノベーションし、新增築することなくスペースの有効活用を図った。
- 一方、病院跡施設利用検討WGにて適切な面積配分を精査し、ポストドクターに対しても 19 m<sup>2</sup>/人の面積配分を行い、若手研究者のスペースを確保する一方、3,462 m<sup>2</sup>を減築した。
- 耐震性能を向上させ、安全・安心な教育研究環境を確保した。

### 経緯

2009年（平成21年）	施設マネジメント会議において施設利用実態調査を実施
2011年（平成23年）7月～12月	第1～3回病院跡施設利用検討WGにて再配分案の取り決めの 大枠が決定
2012年（平成24年）1月～3月	施設マネジメント会議等にて計画案報告・承認
2013年（平成25年）12月	工事着工
2015年（平成27年）1月	工事完成・供用開始

### ○整備のイメージ

- 病院跡施設に、周辺の教育研究機能が移転した。



改修前後の移行イメージ図

### 基本情報

- 築年月：1977年
- 改修工期：2013年12月～2015年1月  
経年36年で改修
- 延べ面積：6,030 m<sup>2</sup>
- 工事費：9億2800万円
- 構造・階数：鉄筋コンクリート造・4F
- 整備前施設名：第1中央診療棟
- 整備前用途：病院施設